

18歳未満のお子様スマートフォン等を利用させる場合、保護者の方は次の点に十分注意してください。

1 適切にインターネットを利用する

SNS を利用して子供たちを言葉巧みに誘い出す事件やトラブルが発生しています。インターネットに関する知識、情報モラルやコミュニケーション能力を親子で身につけ、正しく利用することが重要です。

2 家庭のルールを作る

長時間利用によるネットの依存症も増加しています。適切な生活習慣が身につけられるように、お子様と一緒に話し合い、それぞれご家庭のルールを作りましょう。「利用時間は夜9時まで」など、ルールは具体的に決めることが、ポイントです。

3 フィルタリングなどを設定する

「フィルタリング」は、知識が十分でないお子様が、不用意に違法・有害サイトにアクセスしないよう制限する機能です。子供たちが事件・事故に巻き込まれないようにスマートフォン等には必ず「フィルタリング」を設定してください。

○実際に起きたトラブル事例をまとめた「インターネットトラブル事例集」も活用ください。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

総務省インターネットトラブル事例集

検索



出典：インターネットトラブル事例集(2018年度版)

メッセージアプリ内の会話による悪口や仲間外れ

うっかり「？」をつけ忘れたために

一方的にグループから外されてしまった

〇〇ちゃんの話ってさー

いつも面白くない



クラスの仲良し数人でやっているグループトーク。Cさんは、メッセージの最後に「？」をつけ忘れたまま、スマホを置いてお風呂に入ってしまった。



お風呂上りにスマホを見ると、「ひどい！」などのメッセージが。誤解を解こうとしても、反応なし。Cさん以外のメンバーは別グループを作り、Cさんを外したのです。

考えてみよう！ 会話の流れが速く、ささいなことでも誤解や感情の行き違いが生じやすいグループトーク。トラブルに発展することなく、仲良く使い続けるために気をつけたいことは？

A. 誤解を与えないために

「？」と「！」では意味が真逆になることもある文字の会話。記号やスタンプ、(^.^)のような顔文字を活用して、気持ちが正しく伝わるよう工夫しながらやり取りすることが大切です。

B. 速くて複雑な会話だから

グループトークはテンポが速く、複数の会話が行って飛び交います。途中参加をすると、流れをつかむのは至難の業。でも、曖昧なまやりとりをするとトラブルに発展することも。

C. ムカツ！イラッ！としたら

どんな会話でも、嫌な気持ちになることはあります。そんなときは感情をすくすくぶつせず、一呼吸して考えて。文字だとケンカになりそうなら、電話で話してみるのも良い方法です。

【本ページの内容に関する問い合わせ先】

総務省 北海道総合通信局 情報通信部 電気通信事業課 / 電話：011-709-2311 (内線：4704)

発行

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階
電話 011-211-2942 ファクス 011-211-2943

ホームページ「子どもの権利のページ」
<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>



Eメール
kodomo.kenri@city.sapporo.jp



令和2年(2020年)3月発行



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース
The Rights of the Child

第22号

令和2年3月発行

子どもにとって大切な権利
・安心して生きる
・自分らしく生きる
・豊かに育つ
・参加する

「赤ちゃんってすごい！」小学生が赤ちゃんとふれあい体験！

札幌市では、小・中・高校生を対象に、乳幼児とその保護者が学校を訪問し、赤ちゃんが主役になってふれあう授業を行っています。

今回は、資生館小学校6年生の授業を紹介。赤ちゃんが1歳になるまでの約半年間、赤ちゃんの成長やふれあう楽しさを感じながら、小学生の子どもたちがあらためて「赤ちゃんってすごい！」と感じた様子をお届けします。



「赤ちゃんってすごい！」はどんな取組なの？

若い世代が赤ちゃんとふれあう機会が減っている中で、子どもたちが乳幼児の成長・発達を学びながら、赤ちゃんとふれあう楽しさや命の尊さを感じることが出来る取組として実施。

今回、資生館小学校では、6年生の授業に乳幼児の親子9組が合計4回訪問しました。

赤ちゃんと出会う前に…

まずは赤ちゃんを迎える準備からスタート。子どもたちは事前学習で、人形での抱っこ体験や、特別なメガネを使って赤ちゃんの視野の狭さを体験するなど、赤ちゃんとふれあうときに気をつけることを学びました。

赤ちゃんのお世話って大変…でもかわいい！

事前学習のあとは、いよいよ赤ちゃんとその保護者に初対面。初回の授業では、赤ちゃんが生まれたときのエピソードや、そのときのお母さん、お父さんの気持ちなどを聞きました。

2回目と3回目の授業では、おむつ替

えやお風呂、授乳など、赤ちゃんのお世話についてのエピソードを聞いたほか、赤ちゃんとコミュニケーションの取り方や離乳食についても学びました。

「かわいい、かわいい」と赤ちゃんとふれあう子もいれば、おそろおそろ赤ちゃんを抱っこする子もいるなど、反応は様々。子どもたちはそれぞれに、赤ちゃんを育てる大変さや楽しさについて理解を深めながら、赤ちゃんの気持ちを考え、その成長を実感することができたようです。



1歳の誕生日おめでとう！

最後の交流は、子どもたちが企画する赤ちゃんのお誕生日会。よさこいやダンスを披露したり、手作りおもちゃをプレゼントしたりと、子どもたちが考えた楽しい催しが満載。一緒に過ごした楽しい時間を思い出しながら、みんなで1歳の

誕生日をお祝いしました。



参加者の感想

子どもたちからは、「赤ちゃんのすごさに気づき、赤ちゃんが好きになった」「自分の親の大変さが分かって、お礼を言いたくなった」などの感想がありました。また、保護者の方からは、「回を重ねるごとに子どもたちが積極的に交流してくれて嬉しかった」「小学生たちを見て、いつか自分の子どももこんなに大きくなるんだとすぐ先の未来を想像して、育児で大変なときも乗り越えやすくなった」などの感想がありました。

札幌市では、今後も学校や子育てサロン、地域のイベントなど、様々な場所で乳幼児の親子と子どもたちがふれあう機会をつくる取組を進めていきます。

さっぽろのまちづくりに

子どもの声を届けよう！

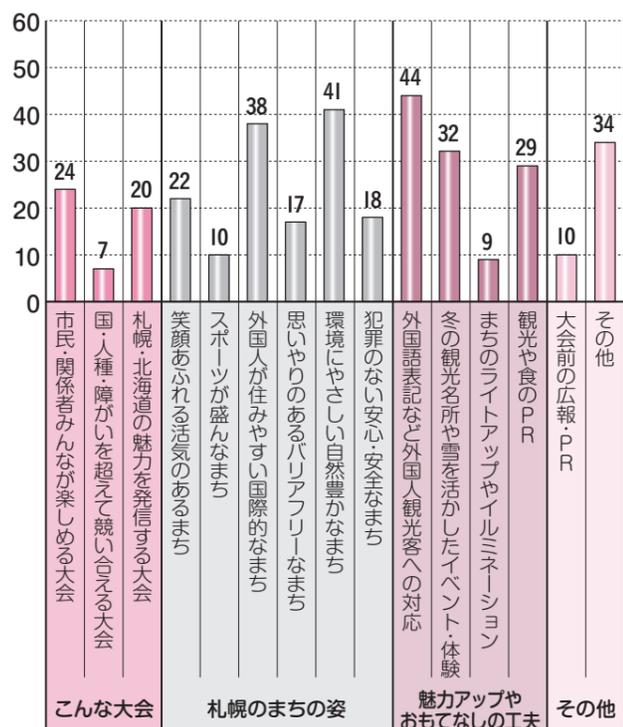
札幌市では「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を活かす取組を進めています。今回は、子どもたちの声を札幌のまちづくりに届ける取組として実施している「子どもの提案・意見募集ハガキ」について紹介します。

子どもの提案・意見募集ハガキ

今回のテーマは、「冬季オリンピック・パラリンピック招致」と「子どもアシストセンターの周知」。子どもたちから提案や意見を募集するため、返信用ハガキ付きの用紙を市内の学校などに配ったところ、11月～12月の期間で合計267名の子どもたちから意見が寄せられました。

冬季オリンピック・パラリンピック招致

232名 / 353件

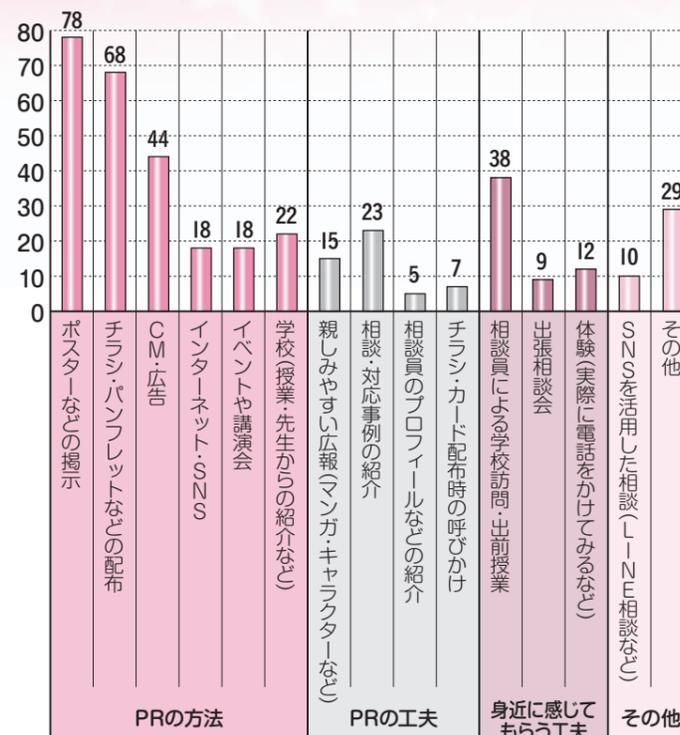


例えばこんな意見

- オリンピック・パラリンピックに関わるすべての人が楽しめる大会にできたらいい。
- みんなが尊重し合って、人種や障がいなどに関係なく、楽しく全力で試合にのぞめる大会になってほしい。
- 市民がオリンピック・パラリンピックで行われたスポーツを好きになって、スポーツが盛んなまちになるといい。
- 札幌は犯罪もないし、環境もよいと胸を張って言えるようなきれいなまちになってほしい。
- 外国語の看板を増やしたり、外国語を話せるスタッフが増えると、外国からの観光客がもっと楽しめると思う。
- 暖かい国の人たちに、スポーツ以外にも雪を使って気軽に楽しめることがたくさんあることを知ってほしい。
- 2030年よりもっと前から、オリンピックについて話し合うなどして、たくさんの人に興味をもってもらおう。

子どもアシストセンターの周知

237名 / 396件



例えばこんな意見

- チラシは、学校の目立つところに貼った方がいい。カードは、配られるときに説明があるといい。
- こんなときに相談してほしいということや、分かりやすくアニメなどを使って紹介する。
- 相談することに抵抗がある人もいるので、チラシなどに、相談のイメージ図や相談員のコメントをのせる。
- 配布されるチラシに、実際に相談した人の感想などがあるともっと安心して相談できる人が増えると思う。
- 相談員が定期的に学校などに行って、子どもアシストセンターについて教えてあげると身近になると思う。
- いざというときに相談できるように、学校の授業などで実際に電話したりメールしたりする体験をする。
- メールや電話だけでなく、LINEなどの身近なSNSの方が相談しやすい。

札幌市の考え方

子どもアシストセンターが、札幌の子どもにとってもっと身近な相談機関になるためにはどんなことが必要か、ということについて、たくさんのアイデアをありがとうございました。

みなさんから多くの意見が寄せられた「ポスターの掲示」や「チラシ等の配布」については、これまでも地下鉄駅構内にポスターを掲示したり、チラシやカードを配布したりしていますが、みなさんにもっと子どもアシストセンターを知ってもらえるよう、今後も取組

を充実させていきたいと思えます。また、どのようなことを相談できるか、などについて「学校で出前授業を行いPRする」という声もありました。子どもアシストセンターをもっと身近に感じてもらえるよう、みなさんの元へ直接出向くような取組についても、いただいた意見をもとに検討していきたいと考えています。

みなさんからいただいた意見を参考にしながら、子どもアシストセンターがもっと子どもにとって身近な相談先になれるように、様々な取組を進めていきます。

札幌市の考え方

冬季オリンピック・パラリンピックについて多くの意見を寄せていただき、ありがとうございます。

冬季オリンピック・パラリンピックは、選手たちの活躍などを通じて私たちに夢や希望、感動を与えてくれます。また将来の札幌のまちを発展させ、私たちの暮らしをより豊かにするきっかけにもなります。札幌市では、そのように考えて、招致を進めています。

今回、2030年にこのまちの主役になるみなさんに、どんな大会になったらいいか、札幌がどんなま

ちになっているといいかについて意見をいただきました。外国語表記などによる外国人が住みやすい国際的なまちや、環境にやさしい自然豊かなまちへの期待が多かったほか、まちの魅力発信についての様々なアイデアもありました。いただいた意見を参考にして、案内表示を増やしたり、新しい技術を取り入れたりして、大会をきっかけに、国や人種、障がいの有無などにかかわらずすべての人が暮らしやすく、環境にやさしいまちを目指していきます。

たくさんのご意見、本当にありがとうございました。

ひとりで悩まないで相談してください！

例えば

友達から仲間はすれにされた...

部活動がうまくいかない...

自分の気持ちをわかってもらえない...

保護者の方も子どもへの関わり方で悩んでいる...



マスコットキャラクター ハッピー

札幌市子どもの権利救済機関 子どもアシストセンター

電話 〈子ども専用〉 0120-66-3783 【無料】
〈大人用〉 011-211-3783

メール assist@city.sapporo.jp

面談 中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館6階

【相談できる時間】 ※日曜日・祝日・年末年始はお休み

月～金 10:00～20:00

土 10:00～15:00(4月以降/10:00～16:00)